



# ナビ 松 NAVI!



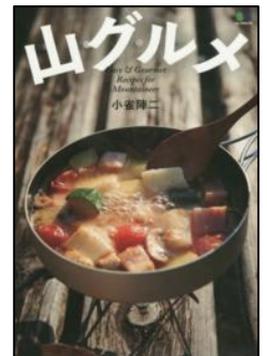
## 特集



### 『山グルメ』

小雀 陣二/著 樫出版社 (596コスズ)

山の上だからといって諦めるな!! ちょっとした工夫で、和洋中様々なグルメを堪能できます。食材の持ち運び方や調理道具の選び方も紹介。登山しなくても美味しく食べられるレシピ…かも?



### 『すべての山に登れ。』

井賀 孝/著 淡交社 (291.0イガタ)

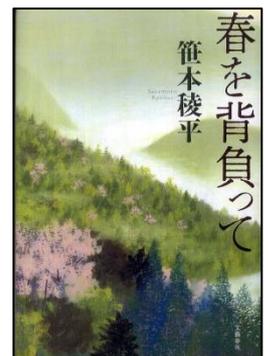
山に魅せられ、修験の道に入った写真家が、日本にある10の山について思いを綴った1冊。著者が撮影した豊富で鮮やかな写真からは、大きさや美しさ、厳しさなど山の魅力が伝わってきます。



### 『春を背負って』

笹本 稜平/著 文藝春秋 (Fササモ)

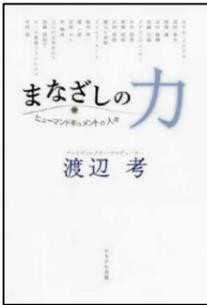
亡き父が残した山小屋を継いだ亨は、父の友人・ゴロさんの手助けを借りながら、山仕事の魅力に触れていきます。様々な出来事や登山者とのふれあいを通して亨が成長していく姿を描く6編の連作集です。



## 【関連図書】

知識ゼロからの富士山入門 瓜生 中/著 幻冬舎 (291.5ウリュ)	ぐるぐる登山 高橋 陽子/著 中央公論新社 (Fタカハ)
死に山 ドニー アイカー/著 安原 和見/訳 河出書房新社 (786アイカ)	山の大きい怒り シャルル=フェルディナン・ラミュ/著 田中 良知/訳 彩流社 (953ラミュ)
日本百名山と深田久弥 高辻 謙輔/著 白山書房 (910.2フカダ)	田部井淳子のそこに山があるから 田部井 淳子/著 洋泉社 (K786タベイ)

# 新着図書のご案内



『まなざしの力 ヒューマンドキュメントの人々』  
渡辺 考/著 かもがわ出版 (281ワタナ)

数々のドキュメンタリー番組を手掛けた著者が、その制作過程で出会った人々へのインタビューの数々を紹介するエッセイ集。力強いまなざしの奥底から発せられる先人の言葉のひとつひとつが深く心に染み入り、魂を揺さぶります。

『感染症大全 病理医だけが知っているウイルス・細菌・寄生虫のはなし』  
堤 寛/著 飛鳥新社 (493ツツミ)

病理医とは、診断や直接の治療行為は行わずに検体を顕微鏡でみて診断をくだす、診断専門の医師です。本書では、新型コロナウイルス感染症をはじめとした感染症を引き起こす病原体や、寄生虫についての基礎知識を解説しています。また、感染症の歴史や感染対策についてのQ&A、感染症専門の病理医からわかる様々な事例やエピソードの紹介もあり、読み応えのある一冊です。



『昨日星を探した言い訳』  
河野 裕/著 KADOKAWA (Fコウノ)



僕は全寮制の制道院学園で中学から高校までの6年間を過ごした。過去に目の色による差別があり、現在は表向き平等となった緑色の目の茅森が転校してきたのは中学2年生の時だった。彼女は幼い頃途中まで読んだ、真に平等の世界を描いた映画の脚本『イルカの唄』を探していた。そして、総理大臣となってその世界を実現すべく、手始めに政財界に人脉の多いこの学園のトップ・生徒会長を目指す。僕は学園の裏組織・清掃員を取りまとめながら、秘密裏に彼女と共闘していく。

夢は薬諦めは毒 佐伯 チズ/著 宝島社 (159サエキ)	我々は、みな孤独である 貴志 祐介/著 角川春樹事務所 (Fキシユ)
おはなしおばさんのおはなし春夏秋冬 藤田 浩子/語り 読書サポート (376フジタ)	夫の後始末 続 曾野 綾子/著 講談社 (914.6ソノア)
もっと知りたい鳥獣戯画 土屋 貴裕/監修 東京美術 (721モツ)	福島民報が伝えた古関裕而 福島民報社/編集 福島民報社 (K762コセキ)

## ヤング アダルト Y・A世代の君へ 司書のイチオシ本!

Y・Aとは…13歳から19歳の世代  
大人になりつつある若い人のこと。

教室 14歳の  
若松英輔

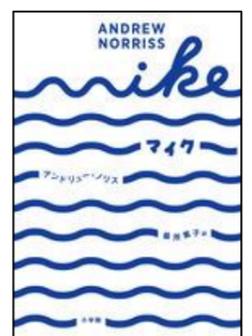
『14歳の教室 どう読みどう生きるか』  
若松 英輔/著 NHK出版 (B10ワカマ)

中学校で7回にわたって行われた授業の書籍化です。「おもう」「考える」「分かる」「読む」「書く」「聞く」「話す」。7つの動詞から学び考えていく一冊です。時に私たちは物事を止まったように考えてしまいがちですが、世界は内的にも外的にも常に動いています。動的に考える生き方を学びましょう。



『海がわかる57のはなし おどろきのサイエンス -素朴な疑問から最新の話まで』  
藤岡 換太郎/著 誠文堂新光社 (B45フジオ)

地球の表面の約7割を占める海は、島国に住む私たちにとっても身近な存在です。しかし、未だに宇宙と同じくらい謎を秘めた存在でもあるのです。本書では、誕生から最新の研究成果まで、海に関する話を57の項目に分けて紹介しています。読んだ後には、また新しい海の謎が見えてくるかもしれません。



『マイク』  
アンドリュー ノリス/著 最所 篤子/訳 小学館 (Y93ノリス)

テニスの選手として将来を有望視されているフロイドは、ある試合中にスタンドを歩き回るマイクの姿を見つける。試合中にもかかわらず、マイクはコート内へ侵入し審判席のそばまで来ると、フロイドを海辺の散歩に誘うのだった。フロイドはマイクを指さし、審判にマイクを追い出すよう訴えるが、マイクの姿はフロイド以外の誰にも見えないようで…。「本当の自分」とは何かを問いかけてくる物語。

### 所蔵雑誌のご案内

月刊誌『ノジュール』  
JTBパブリッシング  
50代からの旅と暮らしを彩る、大人賢沢な一冊。新しい生活様式に添った旅を、楽しんでみては？ 旅行に役立つ情報だけでなく、豊富な写真で行った気分も味わえます。

月刊誌『ジュニアエラ』  
朝日新聞出版  
時事ニュースをジュニア向けに分かりやすく解説。難しい言葉にも詳しい説明があるので、より理解を深めることができます。エンタメコーナーもあるよ。

松川学習センター図書室で所蔵している、オススメ雑誌をご紹介します。ぜひご利用ください!

こうしらんしょう ものごとのは(じ)まり は(じ)まり —  
**嚙矢濫觴 ~日本の紙文化~**

新聞紙、ティッシュペーパー、トイレットペーパー、段ボールなど、記録媒体としての機能に留まらず吸収・包装の役割を併せ持ち、幅広い場面で活用されている紙。今や私たちの生活は紙に溢れていると言っても過言ではありません。そうした「紙」の使用は日本においてどのように浸透していったのでしょうか。

書物としての紙の伝来は5世紀頃にはあったとされていますが、日本に製紙技術が伝播したのは西暦610年の飛鳥時代のことで、当時は麻を原料にしていました。その後、日本では強靱な繊維を持つコウゾを原料とすることで、柔らかく保存性に優れた日本独自の「和紙」へと発展していきました。

平安時代には和紙は貴重品として支配階級の間で日記・文書記録などに使われていました。鎌倉時代に入ると、通気性に優れた和紙は障子や襖に利用され、記録媒体だけではない和紙の活用がされはじめました。江戸時代では、社会における紙の需要がますます高まり、全国各地で和紙が生産されるようになり、庶民でも簡単に手に入るようになりました。しかし、明治時代に洋紙が輸入されると、生産効率が悪い和紙は徐々に衰退の一途を辿っていきました。現在でも需要は根強いにも関わらず、原料産地の減少・後継者不足により供給が危ぶまれています。

日本では和紙とともに様々な技術が発展してきました。現代においても、薄くても強いという特徴を活かして、お札やマスクなど身近なところに和紙は利用され続けています。

〔参考文献〕『紙の科学』半田 伸一／監修 紙の機能研究会／編著 日刊工業新聞社(585カミノ)

## おはなしかい のおしらせ

図書室では、毎月おはなし会を開催しています。  
予約は不要です。お気軽にご参加ください。

### ★おひざにだっこのおはなしかい

日時：毎月第1木曜日 午前10時30分から  
場所：松川学習センター1階 和室  
対象：3歳までのお子さんとその保護者  
内容：絵本の読み聞かせ、手遊びなど

### ★おはなしロケット

日時：毎月第1土曜日 午前10時30分から  
場所：松川学習センター1階 和室  
対象：4歳から小学生  
内容：絵本の読み聞かせ、  
テーマにそった本の紹介など

松川学習センター図書室広報

**松NAVI! 第6号 2020年11月1日発行**

編集・発行：松川学習センター図書室 〒960-1241 福島市松川町字杉内33 TEL 567-2403

